

## 参加者の声

- 那覇の歴史―戦争―と拡がりがありました。
- 学校にいるとなかなか交流できない、いろんな方々と一緒に平和について考えるかなり貴重な体験になった。戦争が止まない世界情勢や県内の心痛い事件に気持ちが塞がりそうになりますが、共同体を作り連携することで少しでも未来に繋げられたらと強く感じました。勇気と励ましをもらったような気持ちです。
- ずっと住んでいるのに知らなかったこと、気づかなかったことに触れることができました。また、県内の平和教育の動向について知ることができ、ひとりの大人として次世代にどのように歴史を伝えていくべきか、考えさせられました。
- 大田光さんのお話にはとても心を打たれました。現代の私たちと同じように「日常生活」を送っていた市民や若者たちがどのように戦闘に巻き込まれていったかということが、とてもリアルでしたし、太田さんのお話に出てくる方々おひとりおひとりのエピソード（人生）をととても大切に扱っていらっしゃるのを感じて、語り継ぐというのはこうあるべきだと思います。



# 平和教育指導者養成講座

～戦跡フィールドワーク in 読谷～

## 届けた、うむい（思い）

教育現場を持つ教育者や関係者が集い、平和教育のネットワーク構築や教材開発を行いました。1日目は読谷村の戦跡を巡るフィールドワークを実施し、2日目はフィールドワークに加え、教員の実践共有と平和教育の授業案の作成に取り組みました。読谷村教育委員会との共催で実施いたしました。

### イベント概要

日 時：2024年8月22日（木）～8月23日（金）  
時 間：10：00～17：00  
場 所：読谷村役場、読谷村内戦跡など  
形 式：フィールドワーク、ワークショップ  
参加者：37人（大学生、学校教員、学芸員、会社員）

### 平和教育指導者養成講座 内容

#### ○1日目 8月22日（水）

##### ①フィールドワーク（午前の部）

忠魂碑 掩体壕 チビチリガマ シムクガマ

##### ②お昼休憩@楚辺公民館

##### ③フィールドワーク（午後の部）

艦砲め喰えー残さーの碑 憲法9条の碑  
飛行場返還の碑 平和宣言の碑 屋良朝苗銅像

##### ④振り返り

#### ○2日目 8月23日（木）

##### ①前日の振り返り

##### ②座喜味城跡見学

##### ③ユンタンザミュージアム見学

##### ④大城真紀子先生の実践共有

##### ⑤平和教育の教材・プログラム作成

##### ⑥発表・感想共有



イベント参加者募集のチラシ

### 成果

平和教育指導者養成講座参加者 **37人** 読谷村における戦跡フィールドワーク2日間の累計参加人数

・教育関係者、学芸員とのネットワークが形成された

アンケート結果  
本事業を通して平和への理解が高まった  
(とても高まった・高まった)

数字 **100%**

### 講師紹介



### 中田耕平(なかた こうへい)さん

読谷村教育委員会 文化振興課  
村史編集係 係長

読谷村の戦中から戦後までの様子を解説していただきました。先生方が活用できる資料の提供してもらいました。

## 参加者の声

- 中田さんの丁寧な説明や参加者との質疑応答、参加者同士の意見交換などを通して、戦跡への理解のみならず、継承の在り方についても深め合うことができて良かったです。
- 平和教育に関心のある様々な職種の方々と交流でき、これからの平和教育の難しさや重要性を改めて考えさせられました。現場の先生方の実践も参考にしたいと思いました。
- 一教員として、生徒たちが『学びたい』と思えるような平和教育にするために、教員自身も学び続ける必要があると感じました。今回のような学びの機会が継続されることを願っています。
- 読谷村だけでなく、沖縄県内の各市町村にも戦跡があり、地域資源を活かした平和教育ができる可能性を感じました。今後、さらに広がりを持った取り組みになればと思います。
- 教材開発に加えて、実際に作成した教材を体験する機会があると、より実践的な学びにつながると感じました。今後の展開に期待しています。
- 学校現場だけでなく、地域や社会全体で平和教育に取り組むことの大切さを実感しました。学びを深め、次世代へ伝える責任を改めて感じました。



# 平和教育指導者養成講座

～戦後復興を支えた沖縄移民から学ぶ平和教育～

## 届けた、うむい（思い）

戦後80年を見据え、新たな平和教育の一つの視点として、沖縄ポリビア協会の協力を得て、沖縄戦の影響で故郷を離れた移民たちの歴史を学び、彼らが異国の地で築いた平和への思いに触れました。戦争が人々の人生に与えた影響を振り返り、移民という視点から沖縄戦の歴史を捉え直すことで、平和の大切さを考える機会となりました。実施に当たり「もうひとつのオキナワ」の物語を次世代へと伝え、平和の意識を未来へつなげていくことを目的とした。

### イベント概要

日 時：2024年10月12日（土）

時 間：9:00～17:00

場 所：読谷村役場、読谷村内戦跡など

形 式：フィールドワーク、ワークショップ

参加者：23人（大学生、学校教員、学芸員、会社員）

### 平和教育指導者養成講座 内容

#### ① フィールドワーク

那覇港 チビチリガマ シムクガマ 瀬名波公民館  
仲村顕氏

#### ② お昼休憩@楚辺公民館

#### ③ ワークショップ

「沖縄戦が残した“もうひとつのオキナワ”」  
古謝 敦子先生、伊波さと子先生、金城睦治先生

#### ④ フィールドワーク

おもろまち駅前広場



イベント参加者募集のチラシ

### 成果

平和教育  
指導者養成講座  
参加者

23人

ポリビア移民と沖縄戦を学ぶ  
フィールドワーク

・教育関係者、学芸員とのネットワークが形成された

数字 80%

アンケート結果  
本事業を通して平和への理解が高まった  
(とても高まった・高まった)



### 沖縄ポリビア協会

ポリビア・サンタクルス市や沖縄移住地の県系人との交流促進や人材育成を目的とする。帰国者や二世の親睦・生活向上を図り、研修生との交流、ホームステイ、チャリティー活動、独立記念日の催し、世界のウチナーンチュ大会への参加などを行う。会員は帰国者や元派遣教員、JICAボランティア経験者が中心である。刊行物には「沖縄県ポリビア国派遣教員25周年記念誌」などがある。

## 参加者の声

- 沖縄の平和について学習する機会が今まであまりなかったので、今日のツアーに参加できてよかったです。最も印象に残っているのはチビチリガマとシムクガマでの状況の差です。移民がいたことでシムクガマでは強制集団死が起こらなかったと知って、敵となっている側を知っていて仲間を説得できる移民という存在は大切なだと分かりました。
- ワークショップでは沖縄の旧盆の様子を初めて写真で拝見して、一般のものとかかなり違う様子やものの呼び方が聞き馴染みのないものであることに戸惑い、驚きました。また、フォトランゲージや写真を用いた物語作りは非常に良い活動だと実感し、今後、運営をする際などに取り入れたいと思いました。
- 今回参加してみて、知っていたことと新情報が結びつき、さらなる理解へと進んだことが楽しかったです。ポリビア移民の苦労や願いなど様々な思いの深まったエピソードを聞いて本当に良かったと思いました。また、いつも素通りしていた場所などが歴史を振り返るととても貴重な場所だったと知ることができ、次に通る時が待ち遠しくも思います。
- 天気も良く楽しく参加できました。内容も移民を通しての平和教育となっており、大変勉強になりました。個人的には、初めてチビチリガマとシムクガマに行くことができて良かったです。あんな真っ暗な所に1000名近くの人々が息を殺して隠れていたことを想像すると、改めて戦争は絶対してはいけない、そのために平和教育を充実させなければいけないと感じました。



# 平和教育指導者養成講座

～戦後80年に向けた平和学習プログラムづくり～

## 届けた、うむい（思い）

本講座は、戦後80年に向けてどのような平和学習を教育現場で実施できるのかを参加者と一緒に考え、実践方法や教材を学ぶための企画です。開発教育協会（DEAR）事務局長の中村絵乃さんを講師に迎え、2日間の日程で平和学習への新しいアプローチを参加者全員で考えました。

平和教育指導者養成講座

戦後80年に向けた平和学習プログラムづくり

戦後80年となる2025年に向けて、教育現場でどのような平和学習を行うことができるでしょうか。今回の講座では、実際に教材化されたワークを体験し、感想とワークに取り組み方などについて話し合います。次年度の平和学習プログラムを一層考えてみませんか。

日程 2025年  
2月1日（土） 10:00-16:00  
2日（日） 10:00-16:00

会場 JICA沖縄 多目的ルーム（ニライホール3階）  
※沖縄県立総合教育センター1145号  
※参加費は定員までとなりますので、お申し込みの人数を超過する場合はキャンセルとなります。

内容 オンライン形式を題材としたワークや戦時の写真を活用した教材などを体験し、感想や参加者同士が話し合う場を設けます。

講師 中村絵乃 開発教育協会（DEAR）事務局長  
東京女子大学大学院 教育学部  
でグローバル教育の発展を促し、2009年「開発教育協会」事務局長に就任。以来、社会や学校、社会の課題を学ぶ、持続可能な社会をつくる教育「グローバル教育」の普及・発展を推進。

対象 平和教育に関心があり、教育に関わりのある方

参加無料  
定員30人

申込 オンラインにてお申し込みください  
<https://forms.gle/7Dh9yG9y025664k>

お問い合わせ 株式会社うむい沖縄（開発・研修）  
メール [umui@umui-japan.com](mailto:umui@umui-japan.com)  
電話 090-3330-7474

## イベント概要

日時：2025年2月1日（土）、2日（日）  
時間 10：00～16：00  
場所：JICA沖縄（多目的ルーム）  
形式：対面実施

## 平和教育指導者養成講座 内容

○1日目 2月1日（土）

事業説明（沖縄県）
実践共有①：ポリビア移民教材「あなたは何を選択する？」（実践者：伊波さと子、伊波興穂）
実践共有①のふりかえり
平和について考える： ①平和ビンゴ ②新聞記事（写真）を活用したワーク ③「日本にいる難民」

○2日目 2月3日

実践共有②：「バッグの持ち主を探せ」（実践者：大城真紀子）
実践共有②のふりかえり
平和に関する問いづくり
イベント全体のふりかえり

## 第4章

### 成果

参加者

36人 2日間の累計参加人数

ゴール

教育関係者とのネットワークを形成  
平和学習のアイデアを共有  
課題を話し合い、解決の糸口を模索  
対話による平和学習の大切さを共有

アンケート結果

本事業を通して平和への理解が高まった（とても高まった・高まった）

100%

## 参加者の声

- 難民のエピソードや平和を考えるビンゴなどを通して、平和について考える切り口はいろいろあるように感じた。
- 一つの教材から、平和教育や他文化理解、人権教育などに様々な分野に繋がれることに感銘を受けました。
- 現場にいと忙しくて、心が萎えてしまいましたが、講座を受講し色々な出会いや刺激や学びがあり、教材づくりを頑張ろうという意欲が湧いてきました
- ①教師の問い(発問)が非常に重要だと改めて痛感しました。  
②生徒の主体的な学びをサポートし、豊かな学びの共同体づくりを促す授業やフィールドワークの大切さを改めて実感しました。

## 講師のコメント



中村絵乃さん  
(DEAR事務局長)

実践共有で紹介された教材（ポリビア移民教材、バッグの持ち主を探せ）をはじめ、日本の難民、ジェンダーなど様々な視点から平和学習のあり方を考えました。最後の問いづくりでは、「なぜ、沖縄が戦場になったのか」「今、日本は戦後なのか戦前なのか」「沖縄戦をどう継承するのか」など本質的な問いがたくさん出てきました。ここで出た問いから、どんな実践が生まれてくるのか楽しみです。



## 教材①

# 紙芝居をつくろう

## ～もう一つのオキナワ物語～

ねらい：世界には2つオキナワがあることを知り、移民の歴史にふれる。

キーワード：沖縄戦、沖縄移民、戦後復興、コロニアオキナワ、ポリビア

作成者：古謝敦子(恩納小学校)

### すすめ方

時間	活動・発問など
導入	1枚の写真Aを見る（フォトランゲージ）・解説を聞いて流れをつかむ 始めはどこの国の写真かは伏せ、フォトラン後解説する 学習者の「問い」から「ねらい」を焦点化し学習の流れを設定する
展開①	3枚の写真を使って各グループで紙芝居を作る 右①～③の順番でなくてもストーリーが繋がれば可とする
展開②	作成した紙芝居を共有する 写真の順番がちがうグループをピックアップする
まとめ	詳しい資料を読んでポリビア県系人が大切にしているものを考える。 この学習を通し考えたことを共有する 移住した人たちが大切にしている「母県」沖縄への「思い」について触れる

## ーフォトランゲージとはー



フォトランゲージとは、写真や画像を使って参加者が自由に感じたことや考えを表現し、対話を深める教育手法です。特に、平和教育や異文化理解の場面で活用され、写真を通じて多様な視点を引き出し、共感や批判的思考を育むことを目的としています。

## 作成の背景

本教材は、第二次世界大戦で戦場となった沖縄が土地や家を失い、多くの県民が苦しい生活を余儀なくされる中、戦後の移民政策により南米ポリビアへの移住を選択したウチナーンチュの歴史を学ぶことができます。

当時、「南米ポリビアに行けば広い畑を与える」という国の誘いを受け、多くの人々が新天地で農業を成功させ、豊かな生活を築くことを夢見て海を渡りました。しかし、移住先で待っていたのは、未開のジャングルの開拓や厳しい自然環境との闘いでした。それでも、移住者たちは助け合いながら土地を切り拓き、農業を軸に新しい社会を築いていきました。

本教材では、特に、移住者たちが抱き続けた平和への願いや、沖縄の精神「ユイマール（助け合い）」の実践に焦点を当て、戦争の影響を多角的に捉える視点を養うことを目指します。戦後80年を迎える今、過去の歴史から学び、平和な社会を築くために私たちができることを考える機会としたいと思います。



📷 ワークを実施する古謝敦子先生



## — フォトランゲージ使用写真 —

写真①



写真③



写真②



## 教材②

# 「あなたは何を選択する？」

## ～人生開拓ゲーム～

ねらい：沖縄移民の足跡とその歴史、移住地の発展に尽力した人々の努力や知恵について考える。

歴史を追体験することで、自分の生き方や在り方を考える。

キーワード：沖縄戦、土地接收、沖縄移民、戦後復興、コロニアオキナワ、ポリビア

作成者：伊波さと子(宜野座小学校)、伊波興穂(沖縄ろう学校)

## すすめ方

時間	活動・発問など
導入	<b>ポリビア〇×クイズを実施</b> ポリビアの基本情報と沖縄戦後の状況を説明し、ワークの導入を行う。
展開	<b>ワークのルールを確認</b> ルールの説明を行い、活動への理解を深める。
	<b>選択肢を考える</b> 配布資料と情報カードをもとに、自分ならどちらを選択するかを考える。
	<b>グループ内で共有し、意見をまとめる</b> グループメンバーと意見を共有しながら、グループとしての選択を決定。
	<b>各グループの選択を全体で共有</b> それぞれのターニングポイントについて全体で共有し、歴史をたどる。
まとめ	<b>学習の振り返り</b> 「わたしのきもち」を記入し、学習を振り返る。

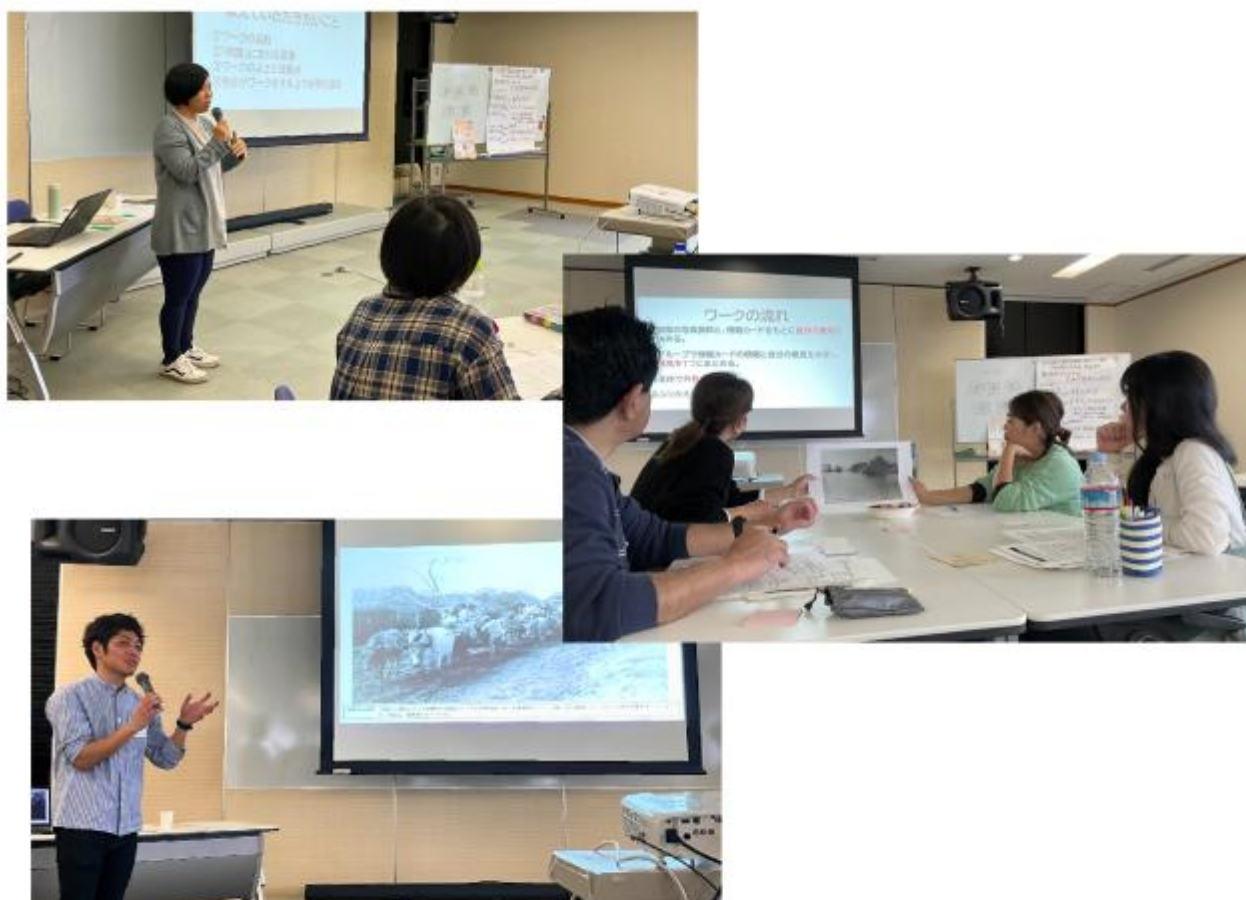
## 作成した背景

戦前から沖縄の人々は海外へ生活の拠点を移し、世界各地に広がり、それぞれの地で新たな生活を築いてきた。華やかで明るいイメージのある沖縄移民だが、戦後ボリビアへ渡った移民の背景には沖縄戦が深く関係している。特に読谷村では、戦後、米軍による基地建設のために土地を接収され、農地や住居を失った人々が、生きる術を求めてボリビアへと渡らざるを得なかった。

本教材では、一見沖縄戦とは直接関係がないように思える「ボリビア移民」という切り口を通じて、沖縄戦が人々の生き方や選択にどのような影響を与えたのかを考える。

人生を自分たちの力で切り拓いた先人の歴史をたどることで、よりよい生き方を考えるためのきっかけにしてほしい。

また、沖縄戦の影響によって故郷を離れざるを得なかった移民たちが抱き続けた平和への思いに触れることで、沖縄戦の記憶を未来へとつなぎ、平和な社会を築くために自分たちができることを考える機会としたい。



## すすめるうえでのヒント

本教材を活用することで、「もし自分がボリビアへ渡っていたら」と想像しながら、当時の生活を体験的に学ぶことができます。学習のまとめでは、移住地を築き上げた人々の苦労や誇りについて考え、それを今後の生き方に活かす機会となることを期待します。

## 教材③

# 「バックの持ち主を探せ！」

ねらい：様々な角度から「平和」について考えられる最初の一步として、  
自分の中にある「アンコンシャス・バイアス」に気づくことができる

キーワード：アンコンシャスバイアス、情報収集、多文化共生、  
多面的・多角的な平和

作成者：大城真紀子(豊見城中学校)

## すすめ方

時間	活動・発問など
導入	「安心して話し合いをするために」ルールを決める。 ・対立意見があっても、安心して話し合いができる準備をする。
展開	ワークショップ「バックの持ち主を探せ！」 ① バックの中身を参考にして持ち主を考える ② グループで話し合う ③ 情報カードを配り、引き続き話し合う
	アンコンシャス・バイアスに気づく 発問1: この活動の意図は何だと思えますか？ ※正解することが目的ではないことを伝える。 発問2: この活動で難しかった点は？ ※情報が少ないことや、情報の信頼性などについて話し合う。
	「アンコンシャス・バイアス」とは？ ① 答え合わせ ② アンコンシャス・バイアスに気づく
まとめ	アンコンシャス・バイアスに向き合う アンコンシャス・バイアスをなくすことはできないけれど、気づいた先にできることがある。それはいったいなんだろう？ ※わたしの気持ちシートやふりかえりなどを記入させる。

## 作成した背景

世界中に大きな被害をもたらした先の大戦から80年が過ぎようとしている。世界の平和を願い、戦争が何も生み出さないことを訴えてきた先人たちが描いた未来に立つ私たちは、この80年をどう捉えて、どう未来に繋げていくのかを考え、行動していく必要がある。地域住民を巻き込んだ地上戦があった沖縄では、過去の過ちを繰り返してはいけないと、6月23日「慰霊の日」を軸に平和教育を実践してきた。しかし、「慰霊の日」に重きをおいて平和教育を続けてきたことで、その取り組みが形骸化しつつある。その状況を変えるために、日常的に活用できる教材を作成しました。

## ワークシート

平和教育指導者養成講座

2025.2.2

### バックの持ち主を探せ!

1. 高校生    2. 大学生    3. 大学院生    4. 車イス  
5. 会社員    6. 消防士    7. エンジニア    8. 会社経営者

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>Surface Go</li> <li>Signature Type Cover</li> <li>Surface ペン、マウス</li> <li>ヘッドフォン</li> <li>Air Pods</li> <li>モバイルバッテリー</li> <li>USB-C ケーブル</li> <li>USB-A - Lightning2 本</li> <li>USB-A-microUSB</li> <li>Apple Watch 充電</li> <li>財布、コインケース</li> <li>名刺入れ</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>香水</li> <li>財布</li> <li>エコバック</li> <li>イヤホン</li> <li>鍵chainアヒル</li> <li>お菓子(グミ)</li> <li>サンダラス</li> <li>ハンドクリーム</li> <li>日焼け止め、パウダー</li> <li>ノートとペン</li> <li>定規とのり</li> <li>インスタントカメラ</li> </ul>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>財布</li> <li>アクセサリー (ポーチの中)</li> <li>イヤホン</li> <li>名刺入れ</li> <li>スケジュール帳</li> <li>ペンケース</li> <li>ドイツ語と英語の会話集(テキスト)</li> </ul>	
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマホ</li> <li>財布</li> <li>AirPods</li> <li>パウダー</li> <li>リップ</li> <li>イヤリング (アクセサリー)</li> </ul>	

E	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポーチ (化粧品や小物入れ)</li> <li>Bluetoothスピーカー</li> <li>モバイルバッテリー</li> <li>AirPods</li> <li>Apple Watch</li> <li>財布</li> <li>トラベラーズノート</li> <li>スマホ</li> <li>ミニタブレット</li> <li>めがね、眼鏡</li> <li>折りたたみ傘</li> </ul>	
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートPC</li> <li>マウス</li> <li>iPad mini</li> <li>Wi-Fi ルーター</li> <li>LED</li> <li>ポータブル充電器</li> <li>ボイスレコーダー</li> <li>PC、タブレット</li> <li>接続コード</li> <li>めがね</li> <li>ペン</li> <li>イヤホン</li> <li>財布</li> <li>コインケース</li> </ul>	
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマホ</li> <li>バックハンガー</li> <li>iPad Pro, pencil</li> <li>ノートパソコンスタンド</li> <li>財布</li> <li>キーケース</li> <li>AirPods</li> <li>歯切り、鼻毛カッター</li> <li>リップクリーム</li> <li>パルカー</li> <li>折り畳み傘</li> <li>ポテニスプレー</li> <li>接続ケーブルなど</li> </ul>	
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad Pro</li> <li>Air Pods Pro</li> <li>モバイルバッテリー</li> <li>折りたたみキーボード</li> <li>USB typeC ハブ Train1</li> <li>めがね</li> <li>ハンドクリーム</li> <li>USB-C ケーブル</li> <li>Lightning ケーブル</li> <li>SD カードリーダー</li> <li>SD カード</li> <li>ペンケース</li> <li>ソーイングセット</li> <li>教習セット</li> </ul>	

## すすめるうえでのヒント

平和学習を体系的に進めていく最初の活動として、大切な視点である「アンコンシャス・バイアス」と向き合うことで、様々な活動と結びつけることができる汎用的な教材となっています。例えば、「情報リテラシー（情報収集の仕方や信頼性、正しい歴史認識など）」と結びつけたり、「多文化共生（他国の文化を尊重する、対話によって相手を知ることの大切さ）」といったものが考えられます。今まで1つのテーマで取り組んでいたものと、どのように結びつけるか考えることで、より多面的・多角的に「平和」を捉えることができると思います。

執筆者：大城真紀子



### 受講者コメント

- √沖縄戦の象徴的な場と認識しているのですが、鉄血勤皇隊の悲惨さを前面に打ち出すのではなく、事実を伝え、
- √教師の活動(または行動)範囲では得られない情報が多く、新たな視点や沖縄戦の実相を知る初めの一步から次
- √戦争&戦後の土地の接収で、ほぼ全て無くなった。沖縄戦があった故に、現在的那覇市内には戦前の建造物が無
- √私自身の平和に対する考えや教育者としての在り方についてすごく考えさせられる研修となりました。改めて平



平和教育指導者養成講座 那覇・首里を学ぶフィールドワーク（7月24～25日） 詳細は33～34ページへ

それを通して参加者に考えさせるというコンセプトが伝わってきました。

の一步につながる学びがありました。

い。衝撃的すぎる事実。

和な世の中にしていくための担い手として何をすべきなのか、どう考えていく必要があるのかすごく考えさせられました。

# 首里・那覇フィールドワークマップ

平和教育指導者養成講座「～80年前の首里・那覇を学ぶフィールドワーク 沖縄戦と教育～」の講座を通じて訪問したものをマップとして作成（33ページご参照）



## 03 那覇市歴史資料館

琉球王国時代の資料や首里城関連の展示が充実し、戦前・戦後の那覇の変遷も学べる。那覇市指定文化財を含む貴重な史料を公開しており、特に戦前の街並みのジオラマが好評。

住所：那覇市久茂地1丁目1番1号  
パレットくもじ4階 TEL：098-869-5266

START



## 01 三重城

沖縄県那覇市にある史跡で、琉球王国が18世紀に築いた港の防衛拠点である。異国船の監視や交易の管理を担い、沖縄の海上交通の要所であった。現在も石垣や砲台跡が残り、沖縄・沖縄戦の歴史を伝える貴重な遺構である。

住所：那覇市西3-2-35 付近

## 02 旭ヶ丘公園

沖縄戦での遭難船舶犠牲者の慰霊碑である海鳴りの像や、対馬丸の犠牲者の慰霊碑である小桜の塔、戦没新聞人の碑等、数多くの慰霊の塔が立ち並ぶ。

住所：那覇市若狭1-26-5

対馬丸記念館 HP



## 04 対馬丸記念館

「子どもと平和」をテーマとした記念館である。昭和19（1944）年8月22日夜10時12分ごろ、学童疎開船対馬丸はアメリカの潜水艦ボーフィン号によって撃沈された。船舶者1,788名のうちその犠牲者は1,484名と言われている。

住所：那覇市若狭1丁目25番37号  
お問合せ先：対馬丸記念館 TEL：098-941-3515



養秀同窓会の太田さんに解説を受け  
一次資料、教材化の視点で盛り上がり  
ました！



## 06 養秀会館

養秀同窓会は創立125周年の記念事業として沖縄戦で犠牲となった県立一中学徒を追悼すると共に、当館に所蔵された遺品資料を通して戦争の惨さ、平和の尊さを伝えるために、「一中戦没学徒資料室」を開設

住所：那覇市首里金城町1-7 養秀会館内  
お問合せ先：養秀同窓会TEL：098-885-6437



養秀同窓会 HP

GOAL!



## 05 恒久平和モニュメントなぐやけ

「なぐやけ」とは「穏やか」「和やか」といった沖縄の古語。慰霊碑に那覇市出身戦没者2万9千余名の名簿が奉納され、沖縄戦戦没那覇市民の慰霊と恒久平和のモニュメントとして1996年に建立された。

住所：那覇市若狭1丁目旭ヶ丘公園内



## 07 一中健児之塔

沖縄県立第一中学校の第3～5学年の生徒により鉄血勤皇隊が編成され、第五砲兵司令部に配属され多くが戦死した。戦火の中で卒業式が行われた寄宿舍「養秀寮」の跡地に慰霊碑が建立されている。

住所：那覇市金城町1-7 養秀会館内  
お問合せ先：養秀同窓会TEL：098-885-6437

# 戦後80年 平和教育に関するアンケート調査

戦後80年の節目となる2025年において、教育現場での平和学習の変化や取り組み事例を知るためのアンケートを行いました。対象は、沖縄県内の教員と児童（小学校5・6年生）生徒（中学生、高校生）です。各学校や教員のみなさまが教育現場でどのような平和学習を展開しているのかを知り、その内容を関係者と共有し、より充実した学びにつなげるネットワーク構築を目的としています。

これまで県内の学校では、慰霊の日の取り組み、戦跡を活用した学習、地域との連携、体験者との対話など、多様な平和学習が行われてきました。しかし、平和学習は学校や担当の教員に一任されている場合が多く、その実態を把握することが難しい状況にあります。今回の調査では、平和学習への様々な取り組み事例を教員のみなさまからご回答いただき、その事例をまとめることを目指しました。また、平和学習を受ける児童・生徒たちには、平和について学ぶ環境や心境の変化を図るためのアンケートを実施しました。

## 実施結果 教員の回答数：439件 児童・生徒の回答数：6627件

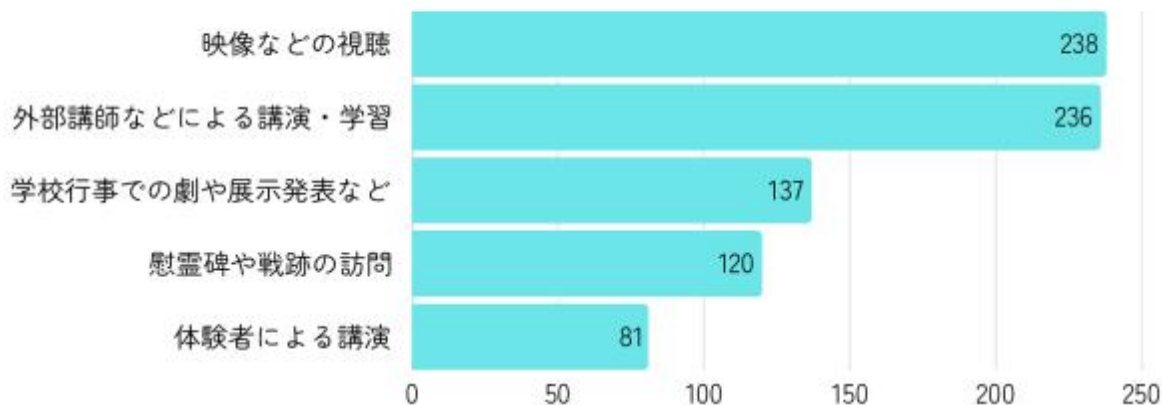
実施期間：2025年2月1日～25日

実施方法：WEBフォームによるオンライン回答

### 教員向けアンケート結果

Q. あなたが担当している学校／学年／学級では、どのような平和教育（学習）に取り組んでいますか？

※複数回答



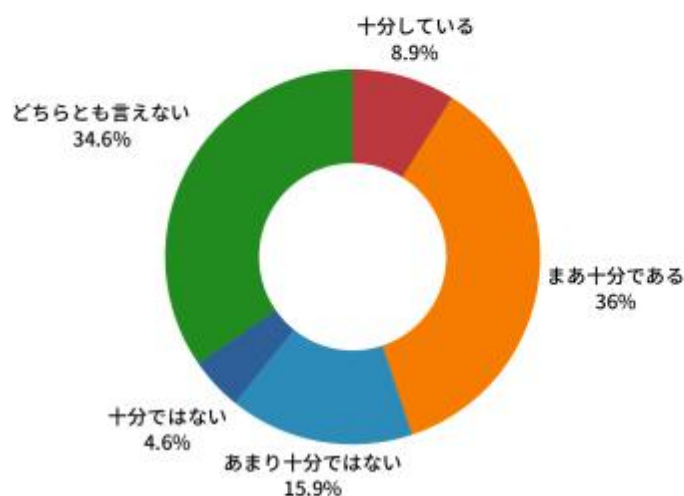
Q. 具体的な平和学習の取り組み事例をご紹介します

- 遠い過去に起きた戦争や外国で起きている戦争について考えるだけでなく、現代の沖縄で暮らしているわたしたち一人ひとりが、平和な心で生きる為にどのような行動や思考が必要なのか、なぜ対立や争いが起きるのか、普段の生活の中の事例を挙げて考えさせたりしている。
- ①一中慰霊祭、②養秀会館展示室見学、③慰霊祭振り返り平和特別集会、④平和祈念資料展(図書館)
- 平和ガイド実施（図書館での慰霊の日特設パネル展、文化祭等）、資料館を訪れる、学芸員の講話、体験談資料調査、地域のガマについて調べる
- フィールドワークとして各学年でバスを貸し切って平和学習に取り組んでいる 1年嘉数高台と前田戦跡、2年チビチリガマ等での見学と講話、3年平和の礎刻銘者読み上げと糸満の戦跡巡り
- 講師を招いて平和に関する体験型講義をしてもらう。
- 平和資料館の利用、ガイドと壕やガマに入る、佐喜眞美術館、宜野湾市役所屋上から基地を見る、辺野古問題について話し合う、基地被害について調べる、騒音調べ

- 教育庁による方言劇、パネル展示
- 沖縄戦に特化せず、平和を大きく捉えて、総合的な学習の時間や道徳、特活、各教科との横断的な取り組み、人権教育、国際理解教育、平和教育など担当間で連携して日常的に取り入れている。
- 南風原文化センターで歴史資料を調べる。飯あげの道を登る。壕の中を体験。
- 忘勿石（地域の碑石）に行き、当時の話を聞く
- 通年で実施している。この日に何があったのか、新聞記事などや戦前、戦争準備への道、事件などに関連付けて平和についての授業（教材）を行っている。
- 有志の生徒が主体となり、演劇、合唱、ダンスなど表現活動を通して平和の尊さについて考える舞台を行っている。
- 名護高校（第三中および三高女）慰霊祭参加。北部の戦争教育委員会から出版された資料をもとに生徒同士、伝え合う。
- 外部講師を招いての講演や絵本の読み聞かせ／総合の時間に、20号壕に入りガイドさんから指導してもらい／自分たちで原稿を読んで、ガイド体験をする／生徒が戦争体験者へインタビューをし、その内容を全校生徒へ発表／道徳の時間に、「うむい」という歌の歌詞から平和を考える／沖縄戦新聞や戦後史新聞の掲示など／社会科の時間に、沖縄戦や5.15や4.28の授業を行う、など
- 全校児童を対象に、今年度は、島出身の歌手を招聘しての「平和コンサート」を行った。学級では、戦争体験者の話が載っている新聞や、絵本の読み聞かせを行った。
- 社会科の特設授業。学年別の取り組み。（1年：沖縄戦について 2年：原爆 3年：SDGsから平和を考える）
- 美術の授業で戦争・平和・問題意識を作品化する

※回答の抜粋

#### Q. 現在の平和教育（学習）の取り組み内容は十分だと思いますか。



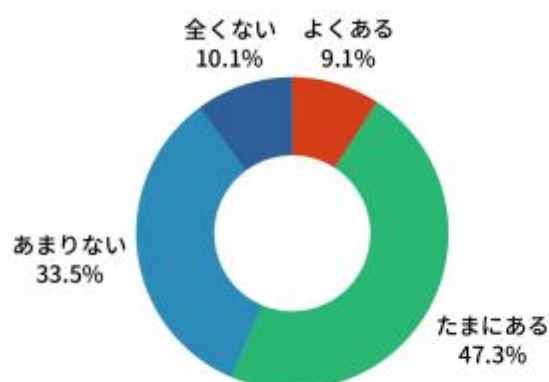
#### Q. 平和学習をより効果的に行うには、どのような支援体制や環境があればよいと思いますか？

複数回答

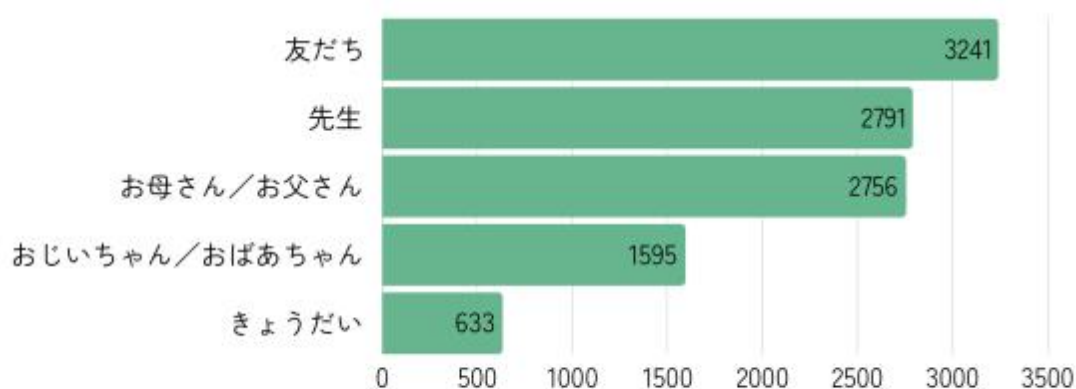


## 児童・生徒向けアンケート結果

Q. 平和や戦争についてふだん、考えたり、話す時間はありますか？



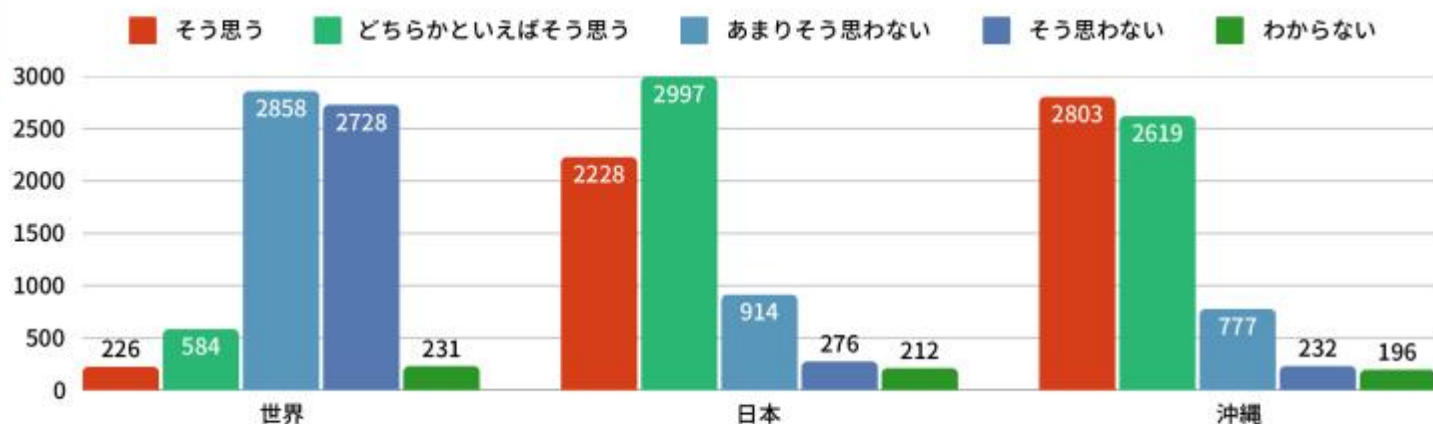
Q. 平和や戦争について考えたり、話すのは、だれとですか？ 複数回答



Q. 戦争や平和などを考える時、主にどこから情報を得ていますか？ 複数回答



Q. 今の世界／日本／沖縄は平和だと思いますか？

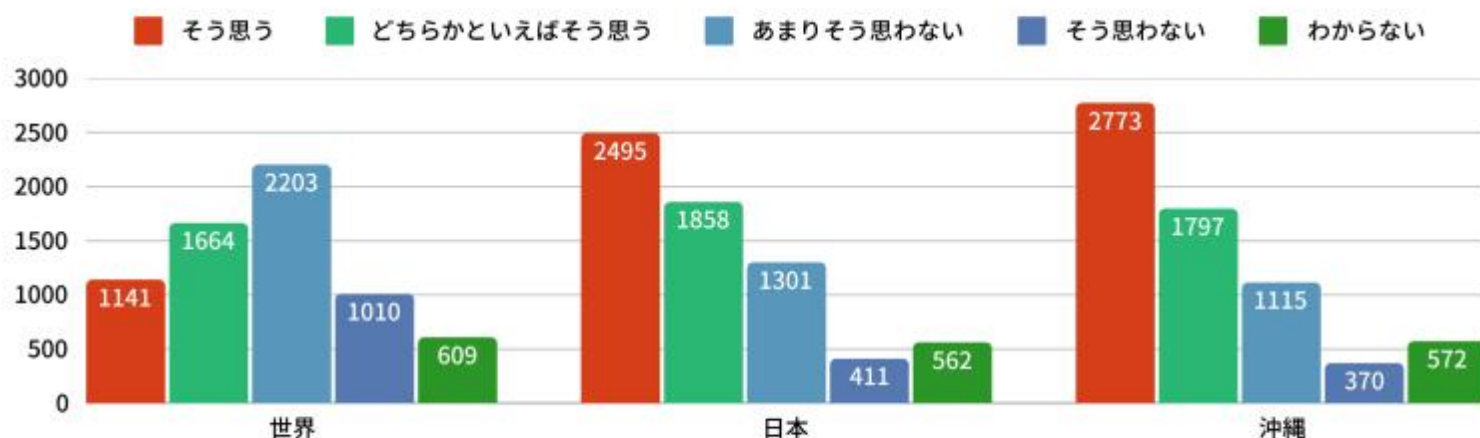


### Q. 今の世界／日本／沖縄は平和だと思う／思わない理由は？

- 世界があまり平和ではないと思う理由は、ウクライナとロシアの戦争や中東では戦争や紛争が既に起きていて、その他の国も核を保有していたり軍事力を強化させていたりして、いつ争いが起こってもいいような体制をつくっているため。日本があまり平和ではないと思う理由は、日本はミサイルの開発とかをしている北朝鮮や、お互いに対立している中国とアメリカなどの国の間に位置していて地理的にも危ないと思うから。沖縄があまり平和ではないと思う理由は、米軍基地が多く、何か起きてしまった際に巻き込まれそうだから。
- 今の世界では色んなところで戦争が起きていたりするから日本と沖縄は大変なことはあるけど自分たちの生活に支障を与えるほどではないから
- 世界は戦争しているから、日本、沖縄は平和主義だから戦争はしないと信じているから。

※主な意見として抜粋

### Q. これからの世界／日本／沖縄は平和になると思いますか？

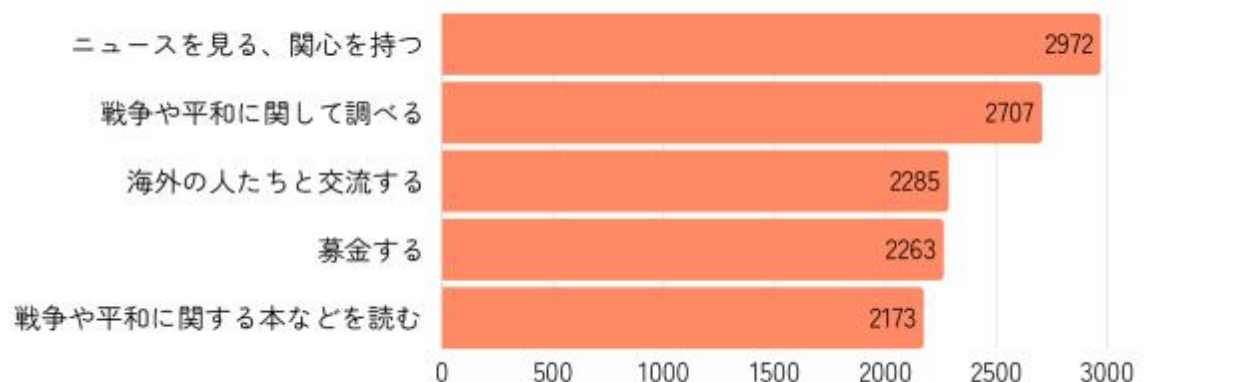


### Q. これからの世界／日本／沖縄は平和になると思う／思わない理由は？

- 第二次世界大戦を経験してもう二度と繰り返さないという世界の共通認識があると思うから。
- 核兵器もまだ多く残っており、多くの国同士での不和が起きているところもあるので、国同士の問題により、多くの争いがいづれ起きそうだと思うから。
- 平和になると言うより、平和でいて欲しい。
- 世界で起きている戦争が終わって二度と戦争をしないと決めれば平和になると思うから。

※主な意見として抜粋

### Q. 沖縄戦の終戦から80年となった今、より平和な社会をつくるためにどんなことをすればいいと思いますか？

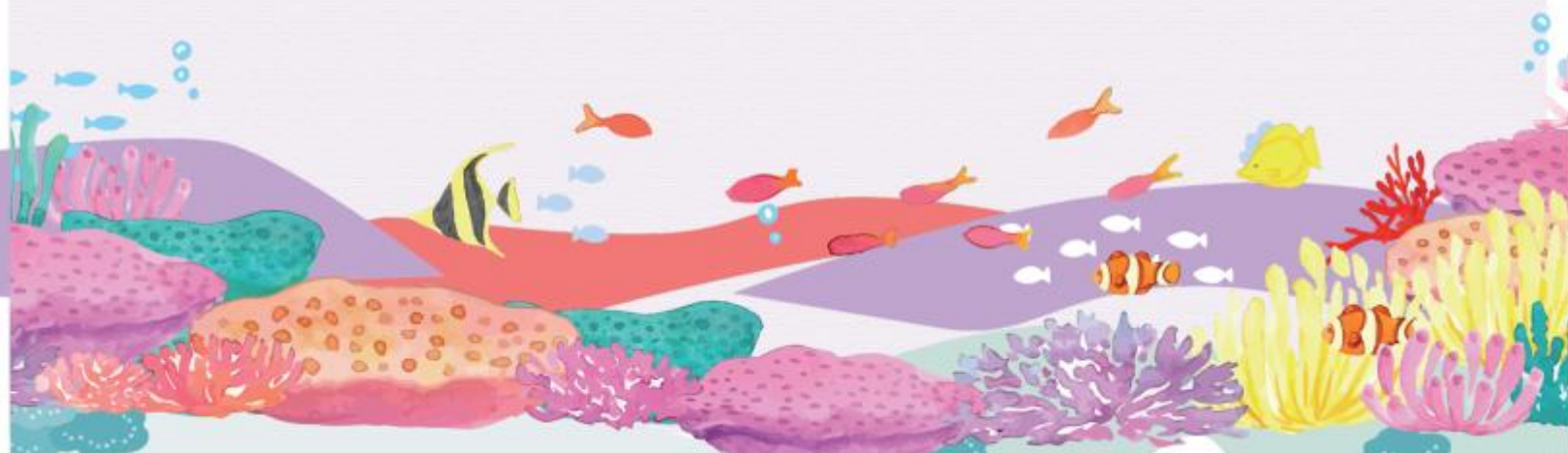




## 第5章 広報活動



平和を希求する「沖縄のこころ」を、県内外の  
多くの方々へ発信し続けました。





沖縄県 知事公室 平和・地域外交推進課



# 沖縄平和啓発 プロモーション事業

うまんちゅ

## 御万人びーすふるアクション

1945年、20万人余の尊い命を奪った地上戦を体験した沖縄県は、命の大切さと平和の尊さを肌身で感じており、世界の恒久平和を心から望んでいます。これまで、悲惨な沖縄戦の実相や教訓を正しく次世代に伝えるべく様々な取り組みが行われてきましたが、終戦から約80年が経過し、戦争を知らない世代が大半を占める中、その継承が年々難しくなっています。

住民を巻き込んだ地上戦を経験した沖縄にしかできない世界の恒久平和・平和構築への貢献のためには、次世代を担う若者が、沖縄戦の実相を正しく継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を世界へ向けて発信できるよう周知・啓発する必要があります。

本事業は、これまでに蓄積された沖縄戦体験談や資料を活用して、沖縄戦の実相や歴史的教訓を正しく次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く伝えるため、県内外でシンポジウムや児童生徒等を対象としたワークショップを実施しています。

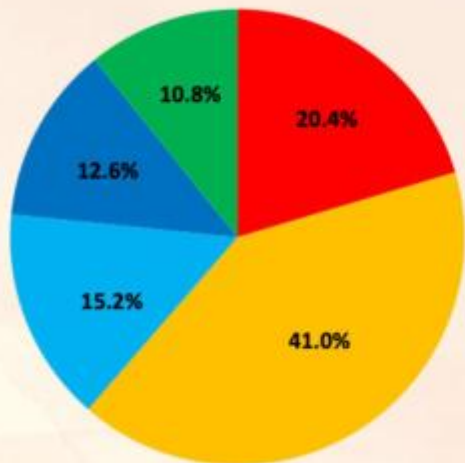
# 沖縄平和啓発プロモーション事業 出前授業アンケート

県内外で出前授業（ワークショップ）を実施し、授業前と後の参加者の気持ちの変化を知るためのアンケートを行っています。

## ワークショップの紹介：①授業前&ふりかえりアンケート

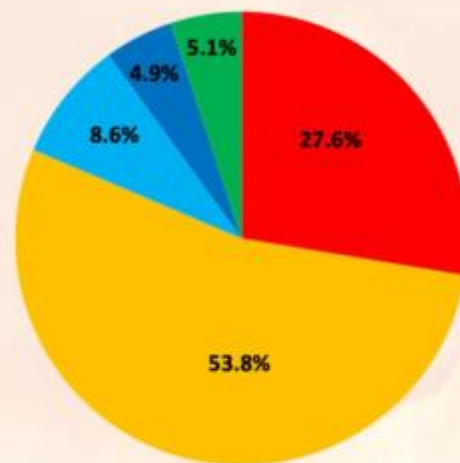
(授業前)

Q：あなたは世界を変えることができますか？



(授業後)

Q：あなたは今日の授業を体験して、世界を変えることができましたか？



● できると思う ● 何かはできると思う ● あまりできないと思う ● できないと思う ● わからない

出前授業後のアンケートでは、世界を変えることが「できると思う」生徒が7.2pt、「何かはできると思う」生徒が12.8pt 増え、平和へのアクションに対し肯定的に考える生徒が約8割となりました。

<2024年6月～11月に実施した出前授業9校、約1,300人の生徒に実施したアンケート結果>



竹富町立黒島小中学校 (2024年6月27日)



那覇市立松川小学校 (2024年6月21日)



宮古島市立北中学校 (2024年7月11日)



神戸弘徳学園高等学校 (2024年11月11日)

# 2024年度 取り組み紹介

2024

7/24-25

沖縄戦と教育～80年前の那覇・首里  
から学ぶフィールドワーク～



那覇市首里にある一中学校資料展示室

8/22-23

戦跡フィールドワーク in 読谷



読谷村の「龍崎の戦い」戦跡

9/21 平和朗読講習会



平和朗読講習会にて朗読プランを発表する参加者たち

10/26

島嶼における戦争の記憶継承  
(沖縄からの平和教育)



ラジオ平和スペシャルにて平和メッセージを発表

11/19・24

RBC i ラジオ  
まるごと1日平和スペシャル  
おきなわ国際協力・交流フェスティバル



JICA沖縄 おきなわ国際協力・交流フェスティバルにて平和の輪本朗読

12/20

中部農林高校とハワイ沖縄県系人の  
平和オンライン交流会

2025

★1/19 平和啓発シンポジウム

2/1-2 平和教育指導者養成講座



ハワイの方々に向けてワークショップをオンラインで発表する生徒たち



平和の卵が産まれるとき

平和の卵が産まれるとき、<sup>ツムイ</sup>想いは月へと放たれる。  
未来へ続く平和の軌跡。

戦火に傷ついたこの島で、過去の悲しみを乗り越え、  
平和の卵を育ててきた80年。

この大切な「平和の卵」を、  
次の世代につないでいくために――

# 戦後80年。平和への道は続く。

戦後80周年を機に、  
平和について  
考えてみませんか？



沖縄県

平和が生まれる島、おきなわ。



沖縄県戦後80周年平和祈念  
Designed by sava



# 「平和育てる一年に」

## 知事ら東京でシンポ



平和構築への思いを語り合う玉城デニー知事（左）らハネリスト19日、新宿区・JICA地球ひろば

### 戦後80年

【東京】沖縄のこころ、平和啓発シンポジウム（県主催）が19日、東京・新宿区のJICA地球ひろばの会議場であり、玉城デニー知事や平和教育の専門家らが沖縄戦の教訓と次世代への継承をテーマに語り合った。

今年には戦後80年の節目、初めは戦後80年の節目、玉城知事は「平和でなければ未来はないことをみんな考えていけるようなきっかけを多くつくり、育てていける一年にしたい」と述べた。約200人が耳を傾けた。

沖縄戦の体験者が高齢化し、語り部は年々減少している。糸満市のひめゆり平和祈念資料館で、戦後世代の館長を務める菅天間朝佳さんは「体験者の『体験した者でない』と伝わらない」との言葉にシヨックを受けたと吐露。それでも別の体験者から「語り継ぐ人たちがいるからこそ、ひめゆり資料館は100年後も存続している」との声に背中を押されたという。

豊見城市立豊崎中の内山直美教頭は平和教育について「対話し、いろいろな力を借りながら毎年継続することが重要」と語った。

県は、内戦の歴史を伝えるカンボジアの博物館建設をめり資料館は100年後も存続している」との声に背中を押されたという。

国際協力専門員の小向理理さんは「体験を100%伝えるだけでなく、つないでいくことが大事だ」と強調。若い世代が資料館やグループワークなどで沖縄戦を学び、ガイドのスキルを高めて実践していく。「自分たちが沖縄戦を伝えるだけでなく、自分たちが期待を込めている」と期待を込めた。

「平和を希求する沖縄」と説明した。歌手の宮沢和史さんは基調講演の他、「島唄」を披露した。シンポは県の平和啓発事業の一環で、YouTubeでも生配信された。（東京報道部・山城豊）

「平和育てる一年に」／知事ら東京でシンポ＝2025年1月20日付、沖縄タイムス（提供）

## 沖縄戦 中学生が学ぶ

### 名張 「参加型」平和学習



参加するガマを演じるワークショップに参加した赤田中学校の生徒ら。糸満市箕曲中村

第2次大戦末期の沖縄戦について、自らの頭で考えてほしい。そんな狙いの平和学習が1日、名張市の赤目（箕曲中村）、名張（丸之内）両中学校であった。知識を学ぶだけでなく、多くの民間人が命を落とした悲惨な沖縄戦についてワークショップ形式で思いをさせた。

赤田中では1年の3クラス、約100人が参加。「うなな沖繩」（沖縄県うるま市）の代表で社会起業家の玉城直美さんが講師となつた。米軍が読谷村に上陸し、「ガマ」（自然壕）に避難する必要があるとの設定で進行。大小いすれかガマを選ぶよう求められると、多くの生徒は家族や親戚と一緒に暮らす小さなガマを選んだ。

玉城さんが史実に基づいて、「日本兵や母国と一緒にいた人は『捕虜』と一語にいた人は『子』もたけ残されたらかわいそう」と、自決を選んだ。「ハワイ滞りの人がいたガマでは、その人が住民を説得して米軍に投降し全員が助かった」と明かされると、生徒らは驚きの声を上げた。

生徒らは「戦争は残酷だ」と思った。「世界中でこんな怖い思いをしている人がいるんだろ」と「戦争は絶対だめ」と感想を語った。（小西文也）

沖縄戦 中学生が学ぶ 「参加型」平和学習 名張＝2024年7月5日付、朝日新聞（提供）

## 「沖縄のこころ」次世代へ

### 平和啓発 難民問題、沖縄戦学ぶ



玉城さん（右）の沖縄戦などの説明に聞き入る生徒たち。11日、北中学校

北中3年生

県立の沖縄平和啓発プロジェクト事業「前万人」は、2024年度に「前万人」の平和教育活動が展開された。北中学校（箕曲山）では、3年生180人が参加した。玉城直美さんが講師となり、平和教育の重要性を説明した。

玉城さんは、戦争を伝えるだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。戦争は、互いを殺し合うだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。

戦争は、互いを殺し合うだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。戦争は、互いを殺し合うだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。

21日始まる。玉城さんは、戦争を伝えるだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。戦争は、互いを殺し合うだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。

戦争は、互いを殺し合うだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。戦争は、互いを殺し合うだけでなく、平和を築くための重要性を説明した。

「沖縄のこころ」次世代へ／難民問題、沖縄戦学ぶ＝2024年7月12日付、宮古毎日新聞（提供）

# メディア掲載

メディア  
掲載回数

19回

新聞：沖縄タイムス、琉球新報、宮古毎日新聞、宮古新報、伊知新聞、朝日新聞 毎日新聞、テレビ：NHK

日付	タイトル	種別	媒体	会社名
2024/7/5	悲惨な沖縄戦、ワークショップで学習 名張の中学校生徒ら思いはせる	出前授業	新聞	朝日新聞
2024/7/12	「沖縄のこころ」次世代へ／平和啓発プロモ事業	出前授業	新聞	宮古毎日新聞
2024/7/12	「次世代WS」宮古島初開催 うなゑ沖縄 北中3年生対象に 命の尊さ学び 平和理解深める	出前授業	新聞	宮古新報
2024/7/12	沖縄戦の悲劇を追体験 赤日中学校で平和学習	出前授業	新聞	伊和新聞
2024/7/13	ガマの避難体験「自分ごと」に 瞬時の選択で生死分かれる 沖縄戦通じ 平和学ぶ出前授業 名張／三重	出前授業	新聞	毎日新聞
2024/7/15	教育関係者対象に平和啓発 県、フィールドワーク参加募る	平和教育指導者養成講座	新聞	沖縄タイムス
2024/7/18	教育関係者向け「沖縄戦学ぶフィールドワーク」 県が参加者募集 7、8月に開催	平和教育指導者養成講座	新聞	琉球新報
2024/7/24	平和学習の担い手養成へ 戦争中大勢の人が亡くなった悲劇学ぶ	平和教育指導者養成講座	テレビ	NHK
2024/8/15	読谷戦跡巡り募集 22、23日教育関係者対象	平和教育指導者養成講座	新聞	琉球新報
2024/9/16	朗読で沖縄戦継承／21日、那覇市で講習会	平和教育指導者養成講座	新聞	琉球新報
2024/12/27	「海から豚」ハワイ向け授業／中部農林高生 ネットで県系人と交流	オンライン交流会	新聞	琉球新報
2025/1/18	平和啓発シンポ 19日都内 ユーチューブで生配信予定	シンポジウム	新聞	沖縄タイムス
2025/1/18	<催し・集会告知>県があす、平和発信でシンポ	シンポジウム	新聞	琉球新報
2025/1/20	「平和育てる一年に」玉城デニー知事ら東京でシンポ	シンポジウム	新聞	沖縄タイムス
2025/1/30	県が戦後80年で教材づくり講座／来月、指導者養成も	平和教育指導者養成講座	新聞	琉球新報
2025/1/30	戦後80年の平和学習講習会 浦添で来月1・2日	平和教育指導者養成講座	新聞	沖縄タイムス
2025/2/16	<ニュースフラッシュ>教職員・児童・生徒らに平和学習アンケート	平和アンケート	新聞	琉球新報
2025/2/17	平和学習の取り組み調査 教員や生徒らに 回答募集	平和アンケート	新聞	沖縄タイムス
2025/3/4	ポリビア移民の歴史と平和学ぶ授業	出前授業	テレビ	NHK

# 沖縄平和啓発プロモーション事業アーカイブ紹介

## ①事業ホームページ



事業内容を詳しく  
ご覧になりたい方は  
HPサイト（QRコードより閲覧可能）を  
ご覧ください。

## ②シンポジウムアーカイブ動画



2025年1月19日、東京京都新宿区で開催されました。「沖縄のこころ」平和啓発シンポジウム（詳細27～30ページ）をご覧になりたい方はアーカイブ映像をご覧ください。

2025.1/19

【第1部】基調講演 うたらな平和  
「この島に永遠の平和を～島唄に込めた思い～」  
【第2部】パネルディスカッション  
平和をつなぐ対話の場「沖縄のこころが運ぶ平和の願い～保存から次世代継承へ～」

会場：JICA地球ひろば 国際会議場



主催：沖縄県 共催：独立行政法人国際協力機構（JICA）

ご協力いただきました

協力学校 沖縄県内10校 県外5校 合計：44

沖縄県内 18団体・個人、県外11団体・個人

独立行政法人国際協力機構（JICA）／認定NPO法人開発教育協会  
対馬丸記念館／養秀同窓会／読谷村教育委員会／楚辺自治会／読谷文化センター／  
ユンタンザミュージアム／ひめゆり平和祈念資料館／東京大学 阿古智子先生／台湾七脚川の皆様  
名桜大学 小川寿美子先生／関東学院大学 藤浪海先生／聖心女子大学 澤野由紀子先生／ハワイ大学 石田正人先生／  
石垣市教育委員会／宮古島市教育委員会／沖縄県立平和祈念資料館／  
NPO法人ジャパンハート／鹿児島県宇検村／認定NPO法人 ヒューマンライツ・ナウ／東京都中野区新風エイサー／  
三重県名張市教育委員会／琉球放送／沖縄ポリビア協会／豊見城中学校 大城真紀子先生／  
豊崎中学校 内山直美先生／沖縄県立中部農林高校／ハワイ沖縄連合会

ご協力いただき、心より感謝申し上げます

# おわりに

本書をお手に取っていただき誠にありがとうございます。

1945年の太平洋戦争・沖縄戦の終結から79年が経過しました。沖縄県では、先の大戦において、住民を巻き込んだ過酷な地上戦が繰り広げられ、多くの尊い命が失われ、豊かな自然とかけがえのない文化遺産が破壊されました。

このような体験をとおして、私たち沖縄県民は、命の尊さと平和の大切さを肌身で感じながら、世界の恒久平和の実現を強く求め続けています。

令和元年度から実施している「沖縄平和啓発プロモーション事業」は、一人ひとりが沖縄戦の実相や歴史的教訓を学び、平和の尊さを考える機会をつくることで、より多くの人々が平和への行動のきっかけをつくることを目的としております。

令和6年度は、これまでに蓄積された沖縄戦の体験談や資料を活用して、沖縄戦の実相や歴史的教訓を正しく次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く伝えるため、東京都新宿区にあるJICA地球ひろばでのシンポジウムや県内外で児童生徒等を対象としたワークショップ、平和教育指導者養成講座などを実施しました。

今後とも、平和を希求する「沖縄のこころ」が県内外、さらに世界中に伝わり、恒久平和の実現に寄与することを目指してまいりますので、引き続き、本県の平和行政の取組に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年3月

沖縄県知事公室  
平和・地域外交推進課

令和6年度  
沖縄平和啓発プロモーション事業 御万人びーすふるアクション 報告書

発行日：令和7(2025)年3月12日

企画・発行：沖縄県知事公室平和・地域外交推進課  
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 行政棟1階(東側)  
TEL:098-894-2226 FAX:098-869-7018

実施運営：株式会社うなゐ沖縄  
事業責任者 玉城直美

報告書作成：株式会社うなゐ沖縄

神山怜奈、狩俣英美、長嶺晃太郎、玉城直美  
〒904-2232 沖縄県うるま市川田402-1 2F  
TEL:050-3000-7492 FAX:050-3730-7940  
<https://unaa-okinawa.com>





2,393人が出前授業を受け、授業の終わりに「〇〇は平和」  
 どんなことが平和かな？とコメントを書いてもらいました。  
 上記はその回答を基にテキストマイニングによって抽出した単語の図です。



## 令和6年度 沖縄平和啓発プロモーション事業 御万人ぴーすふるアクション

発行：沖縄県知事公室平和・地域外交推進課  
 運営：株式会社 うなゐ沖縄